

令和6(2024)年度

金沢大学

Community learning "Future Design" Program

未来デザインプラクティス

～自分と未来は変えられる!～



学長と一緒に
参加!

報告書



目 次

プロジェクト（授業）概要	
目的	2
プラクティススケジュール	3
プラクティス参加状況	3
プラクティス企画一覧	3
事前講義	4
地域での学び（能登）	9
ご協力いただいた皆様	12

プロジェクト（授業）概要

〇目的

令和 4（2022）年度から和田学長のもと実施しているプロジェクト（授業）です。学生は”Practice”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とした授業に参加します。こうした各グループでのプロジェクトに若手担当職員も事前講義から参画してアイデアを出し合うというプロジェクトです。

令和 6（2024）年度は大雪の影響により、報告会をレポート提出に変更しました。

《金沢大学 Web 版シラバスより》

令和 6（2024）年度共通教育科目「未来デザインプラクティス」（授業担当教員 国際日本研究センター 佐藤 智哉 准教授）

授業の主題

「自分と未来は変えられる！」

将来、皆さんは、地球温暖化などの全世界的な課題を解決するためのプロジェクトや、あるいは、地域をより良くするための様々な取り組みに参加することになります。自ら自分たちの”未来をデザイン”し、効果的なプロジェクトを企画し、チームのリーダーやメンバーに提案（プレゼン）し、様々な背景を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいくというわけです。この授業は、その”プラクティス”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とします。具体的には、1チーム 3~4 人の構成で1つの企画をまとめ上げ、その成果を学長が参加する報告会で発表することが主課題となります。プロジェクトは参加学生の皆さんで自主的に考えていくこととなりますが、2024 年度は特に「能登半島の復旧・復興のために金沢大学ができること」「能登半島の未来」をテーマに企画して行く予定です。

授業の目標

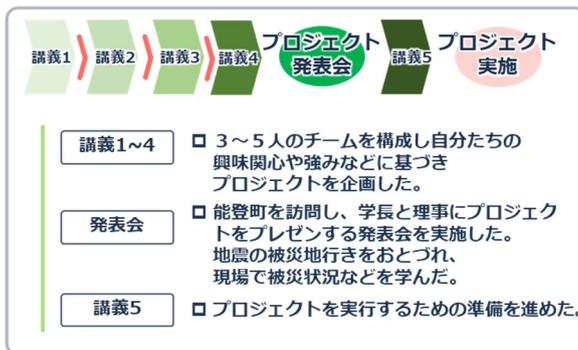
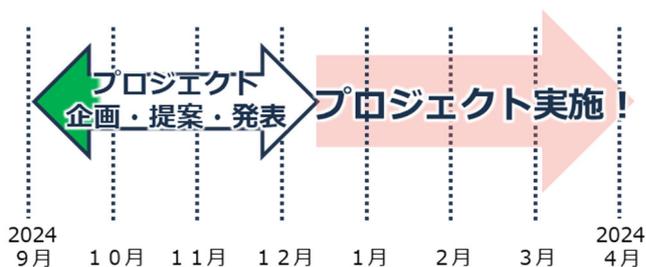
この授業では主に、以下の5つの能力を磨くことを目標とします。

- (1) 独創的なアイデアを用いながらも、実行可能なプロジェクトを企画する能力
- (2) チームのメンバーと目的やアイデアを共有しながらプロジェクトを推進するためのコミュニケーション能力
- (3) プロジェクトを魅力あるものとして提示するプレゼンテーション能力
- (4) チームにおける自身の役割を認識しながら、主体的にプロジェクトに関わっていく能力
- (5) プロジェクトの当事者でありながらも、その意義や重要性を第三者視点から俯瞰的に捉えることができる能力

授業の概要

この授業は、5回の講義、プロジェクト報告会で構成されます（集中講義形式）。5回の講義では、プロジェクトの立案・実施のために、グループワークを中心としたアクティビティーを実施します。プロジェクト報告会には参加費（食費等の実費）が必要です。

○プラクティススケジュール



○プラクティス参加状況

区分	実施日	実施場所	学生人数	教職員人数	合計
臯月/水無月	11月 16日 (土)	能登	8	25	33
Final	中止 (代替措置)				

○プラクティス企画一覧

PRARC	企画
能登A	「能登金沢こねくとかふえ」
能登A	「バリアフリー交流イベント in 金沢大学」
能登B	「能登写真展」
能登B	「留学生にわかりやすい!発災時の行動マニュアル作成」
能登C	「留学ラジオ」
能登D	「ブラッシュアップキャンパス」

事前講義

Future Design Practice
未来デザインプラクティス
 ~自分と未来は変えられる!~

“未来”を“デザイン”する“プラクティス（練習）”

自分の未来

地域の未来
日本の未来
世界の未来

X

未来デザインプラクティス 2

要するに

授業を通して
**金沢大学に関係する
 プロジェクト**を考える

➔

- 未来を変えようという意欲
- 未来を変えられるという自信
- 未来を変えたという経験

国旗プロジェクト

フォトコンテスト
プロジェクト

マイロボット普及大作戦

未来デザインプラクティス 3

授業のテーマ

“You cannot change others
or the past.”

“You can change yourself
and the future.”

Eric Berne (1910-1970)

未来デザインプラクティス 4

授業スケジュール（事前講義x4回 ⇒ 発表会 ⇒ 事後講義x1回）

4回事前講義にて

- 課題やポイントの認識
- アイデア出し
- チーム作り
- プロジェクトの立案
- 発表の準備 など

【講義1】 気づく

➢ 「金沢大学はどんな大学？」

➢ プロジェクトの種はすでにキャンパスにある！

【講義2】 練る

➢ プロジェクトのアイデアを出し合う

➢ それぞれのアイデアを検討・吟読する

【講義3】 創る

➢ “商品（アイデア）”をどのように売り込むか

➢ “お客様”の気持ちを想像する

【講義4】 形る

➢ 商品の“パッケージ”は重要

➢ プレゼン資料の構成（効果的な発表とは）

企画発表会

【講義5】 磨く

➢ 実現可能なプロジェクトにする活動

⇒ “修正” & “変更” も必要

➢ なんとかする！

プロジェクト
実施

未来デザインプラクティス 5

金沢大学は
どんな大学ですか

Kanazawa University

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

Kanazawa
Hokuriku region

Tokyo
From Tokyo 2h30min (Shinkansen)

Kyoto
From Kyoto 2h10min (Train)

- Originated in 1862 as an institution for smallpox vaccination, called "Hikoso Vaccination Center"
- 20 Schools and 7 Graduate Schools
- 10,525 Students (824 international Students)

the 3rd oldest university in Japan

未来デザインプラクティス 7

World's Leading Research Institutes

NanoLSI Nano Life Science Institute Kanazawa University
WPI KANAZAWA UNIVERSITY

AMCRE KANAZAWA UNIVERSITY ADVANCED MOBILITY RESEARCH INSTITUTE

FCTS The Frontier Center for Fusion Science Kanazawa University

金沢大学 人間社会研究域 最先端最先科学研究センター
〒920-1192 石川県金沢市舟橋町
Kanazawa-shi, Kanazawa, Ishikawa 920-1192, JAPAN
http://fcts.kanazawa-u.ac.jp/ | http://amcre.kanazawa-u.ac.jp/ | http://nanolsi.kanazawa-u.ac.jp/

- Cancer Research Institute
- Research Center for Child Mental Development
- Institute of Nature and Environmental Technology

未来デザインプラクティス 8

どのようなプロジェクト・イベントにするか

ポジティブな意味で

「金沢大学って、こういう大学だよ」
「金沢大学を、もっとこうしていきたいよ」

という、思い・気持ち・考えが、背景にあるようなプロジェクトやイベント

自分たちの大学は自分たちでつくる

未来デザインプラクティス 9

プロジェクトのファーストステップ

プロジェクトの立案を考える

- 細かい点はおいておいて、リズムよく
- 携帯で調べてもよし

アイデアの源泉の例

- 「フントがならぬいもんか」
- 世界の課題、地域の課題
- 「Yeah, I am the best on Earth!」
- 自分の強みを活かす!
- 好きなこと、モノ
- 興味、特技
- 「金沢大学って、こういう大学だよ」
- 「金沢大学を、もっとこうしていきたいよ」
- という、思い・気持ち・考えが、背景にあるようなプロジェクトやイベント
- 「Our university, Our home」
- 金沢大学のこと
- プロジェクトの種はすでにキャンパスにある!
- 10年後の金沢大学
- 「未来」から「今」をみる
- 「なぜこうなるの?」
- 「なぜこうじゃないの?」
- いつもの場所 → なんかつ違和感
- 「ラク」したい!
- 自分が出ている、みんなが知っている事かもしれないし、自分が当たり前だと思っても、他の人には、当たり前じゃないかもしれない

原則
プロジェクトには「正解」はない

未来デザインプラクティス 10

2023年のプロジェクト実施例

イベント系

マイボトル普及大作戦

設置系

みるみるグローバルプロジェクト

100年後も輝く金沢大学

イベント・設置系

金大ラジオ

金大ランチスタンプラリー

プロジェクト概要

世界地図、写真、動画、オーディオ

可視化 出合い 繋がり

プロジェクトの全体像

フォトコンテスト

フォトコンテストで撮った写真を活用して、未来の金沢大学を可視化する。

フォトコンテストで撮った写真を活用して、未来の金沢大学を可視化する。

- 環境を考えプラスチック資源の削減を目的として、マイボトルの活用を普及させる
- 様々なバックグラウンドをもつ金沢大学生の多様性を可視化して、出合い・繋がりを作る
- 100年後にも輝きたいような現在の金沢大学の姿をテーマにフォトコンテストを開催する
- 学内で行われるイベントについて、学食で告知するためのラジオを配信する
- 実際に海外に留学する前に、留学生の部屋にホームステイして、プチ留学を経験する
- キャンパス内にある学食スペースの認知度を上げるためにスタンプラリーを開催する

未来デザインプラクティス 11

2023年のプロジェクト実施例

イベント系

金大ラジオ

イベント系

大学で模擬留学体験
～留学に踏み出せないあなたと～

イベント・設置系

金大ランチスタンプラリー

プロジェクト内容

学食で行われるイベントを告知するため、ラジオを配信する。

ラジオ、トークの企画イベントを企画

留学生寮にホームステイ体験の意義・効果

留学生寮にホームステイ体験の意義・効果

留学生寮にホームステイ体験の意義・効果

留学生寮にホームステイ体験の意義・効果

- 学内で行われるイベントについて、学食で告知するためのラジオを配信する
- 実際に海外に留学する前に、留学生の部屋にホームステイして、プチ留学を経験する
- キャンパス内にある学食スペースの認知度を上げるためにスタンプラリーを開催する

未来デザインプラクティス 12

2022年のプロジェクト実施例

異国生活 助ます国旗 金大生考案 留学生との交流イベントで掲げる

2022年10月29日 08:00:59 (15分20秒 108777名視聴)



金沢大学の角館キャンパス（金沢市角館町）で二十八日、留学生らと交流するイベントが開かれた。イベントは一年生四人が企画、十九国二十七人の留学生らが参加し、母国の国旗の飾りつけやゲーム、フラワーアート制作などで親睦を深めた。（要約転載）

アフガニスタンやベトナム、ケニア、自然科学実験所と自然科学専攻の学生部会を結成し、雑誌「高アンスイスインターフェイス」に日本を含めた四十二の国と地域の旗が並び、旗は大学に所属する留学生の六名が三人（今年五月時点で）の出身地のもの。参加者は旗九十センチ、横百三十五センチの旗を、国旗が定まる国名のアルファベット順に掲げていった。



イベントは大学が本年度から始めた異文化型授業「未来デザインプラクティス〜自分と未来は変えられる〜」の一環。この授業では、学生自身が地域社会や大学を受入れるプロジェクトを企画、提案する。イベントは五月から始まった講義の中で、優秀だった二チームの企画を実施した。

「異国の地で不安なこともあると思うけど、母国の旗を見たら安心すると思った」。国旗の飾りつけを提案したのは、の三人。佐々木さんは「今後は日本人を呼んで日本語で留学生と交流する機会をつくらせたい」と話した。

* 中日新聞 2022年10月29日

未来デザインプラクティス

2022年のプロジェクト実施例



未来デザインプラクティス

プロジェクトテーマの例

□ 能登半島の未来につながるプロジェクト

- 被災支援者の方の学内での講演会
- 地元の高校との交流イベント



□ 大学の国際化につながるプロジェクト

- 留学生との交流イベント
- 外国人住民・留学生向けの防災マニュアルの作成



□ 地域との連携強化につながるプロジェクト

- 地域の子供達との交流イベント
- 観光を通じた地域復興プロジェクト



□ ダイバーシティ推進につながるプロジェクト

- バリアフリーマップの作成
- 外国人研究者の講演会

未来デザインプラクティス

新しいアイデア = 既存のアイデアの組み合わせ



未来デザインプラクティス

新しいアイデア = “味変”



例えば



未来デザインプラクティス

プロジェクトの構築工程



未来デザインプラクティス

アイデアはどんどん変わっていきます



“モノ”になるのは少数

カタチもどんどん変化する

プロジェクトの一員のときは
どのOSを使うか？

参考程度に：アイデアが浮かぶ3つの“上”



歐陽脩
古代中国の政治家・詩人
1007年 - 1072年



馬上
枕上
厠上



アイデアを1つに
絞るのは難しい

ですよね・・・

せっかく思いついたアイデアを
捨てるのはもったいない！

“参加者”の観点から考える

そのプロジェクトを実施したら
金沢大学はどのように
変わるのだろうか

そのプロジェクトは
どのような点が優れていると
評価されるか



そのプロジェクトに
参加した人たちは
どのような気分になるか

そのプロジェクトに
参加した人たちの人生は
どのように変わるのだろうか

内容を検討して

スライドの設計図を作る

スライドの設計図とは

7分の発表用のスライド

- スライドの枚数は自分たちのグループの発表にあわせて自由（5~10枚くらい）
- スライドの順番・構成も自由
- 現時点での案を作成。後から、変更してもよい。
- パワポのスライドとして提出すること

未来デザインプラクティス 25

プロジェクトの背景にある
“ストーリー”も伝える

未来デザインプラクティス 26

発表の中で伝えることの例

この通りでもこの通りでなくても構いません

- プロジェクトの背景 ← ストーリー部分、できる限りポジティブに金沢大学のイメージ
- プロジェクトの内容 ← 初めて聞いた人でもイメージできるように
- プロジェクトの目的 ← こういう目的 ⇒ こういうプロジェクトとつながるように
- プロジェクトの効果 ← 何人が参加するのか、参加した人はどう思うか金沢大学にどのような影響があるのか
- プロジェクトのプロセス・リソース ←
 - いつプロジェクトを実施するのか
 - プロジェクトを実施までの準備計画
 - 誰が準備するのか
 - 誰のサポートが必要なのか
 - どのくらい予算はかかるのか

表現可能性を示す！

未来デザインプラクティス 27

発表スライドの作成のコツ

“見た目”は重要
(内容と同じくらい)

オーディエンス
ファースト

未来デザインプラクティス 28

地域での学び

詳細スケジュール

○能登 11月16日(土)

7:50～	参加者集合
8:00～ (学生迎え)	8:00 事務局前出発 (大学大型バス) →8:03 若松乗車 (酒のやまや側のバス停付近：Vドラッグもりの里店向かい) →8:10 旭町乗車 (ファミリーマート金沢旭町三丁目店側歩道：金沢メリアルホールアネックス向かい) ※途中、西山PAでトイレ休憩をとります。
(バス車内)	学生・参加教職員の自己紹介 職員による金沢大学の被災状況・震災への取り組みについての説明
11:00	能登海洋水産センター (能登町) 着
11:00	松原先生による「能登海洋水産センター」施設見学・震災時の様子等について説明 45分
11:45	センター周辺の海岸清掃作業 30分
12:15	能登海洋水産センター 発
13:15	大学コンソーシアム石川能登分室 (輪島市) 着
13:15	昼食 (若手職員によるランチオンセミナー) 45分 ※能登地方に関する写真展示 (職員有志による撮影)
14:00	学生成果発表 (各チーム：発表10分)
15:00	審査 10分 ※学生は休憩時間
15:10	講評 (・表彰) 10分
15:20	学長による講義 (質疑応答含む) 60分
16:20	大学コンソーシアム石川能登分室 発
(バス車内)	学生・参加教職員による感想発表
18:30頃	※途中、西山PAでトイレ休憩をとります。 →旭町降車 →若松降車 →金沢大学事務局前玄関降車

「未来デザインプラクティス『皐月（五箇山）』」の企画発表会を開催

11月16日、共通教育科目「未来デザインプラクティス」が石川県能登町および輪島市で行われ、学生・教職員ら29名が参加しました。

この科目は、「自分と未来は変えられる！」をテーマに、令和4年度からスタートしたものです。自分たちの“未来をデザイン”し、さまざまな背景・専門性を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいき、その“プラクティス（練習・実践）”として、学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主としています。

当日は、能登町にある金沢大学能登海洋水産センターを訪れ、理工研究域生命理工学系の松原創教授の案内で、薬剤を一切使わない「オーガニック養殖」で飼育されたトラフグなどを見学した後、学生や教職員全員で、令和6年能登半島地震による津波でごみなどが打ち上げられた海岸の清掃を行いました。

午後には、「のと里山空港」ターミナルビル内にある大学コンソーシアム石川能登分室に移動し、和田隆志学長による「本・歴史から先人の知恵を学び、想う」の講義、学生による「金沢大学の未来を自分たちでデザインしていこう」というテーマに沿った企画発表を行いました。

帰りのバスの中では、和田学長の講義についての質問があり、学生や教職員からも積極的に質問や発言が飛び交う充実した講義となりました。

今後も、学生が企画したプロジェクトをさらにブラッシュアップしながら、その実現に向けて活動を続けていきます。



能登海洋水産センターで松原教授の説明を受ける参加者



海岸清掃の様子



和田学長の講義の様子



集合写真

未来デザインプラクティス

実施



➢ 聴覚や視覚などの感覚が過剰に敏感な症状を持つ学生たちのキャンパスライフについて理解を深める

能登金沢こねくとかふえ
2024年度Q3 未来デザインプラクティス

プロジェクト
宣言

「大学生活が楽しく、ボランティアに赴くことが難しくても何か社会の力になりたい」

- ・大地震と豪雨により農業や水産業が大きな打撃を受けた
- ・石川県の食の魅力をもっと知りたい

➢ 学業などでなかなかボランティアに参加できない学生が食を通して能登の産業に貢献する

実施



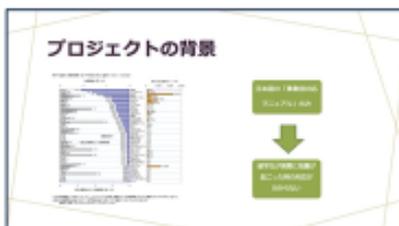
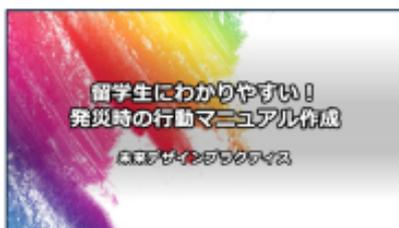
プロジェクト実施の背景



➢ 能登地方の本来持つ素晴らしさをもう一度思い出してもらえような写真展を開催する

未来デザインプラクティス

実施



➢ 地震がない国からも来る金沢大学の留学生のために、地震発災時の行動マニュアルを作成する

実施



➢ 留学をもっと身近に感じてもらうためにカジュアルな留学体験紹介イベントを開催する

ブラッシュアップ
キャンパス

～学生主体の石川県内大学合同プロジェクト～

プロジェクトの効果・目的

- 特色の違う大学に通う学生が意見交換
「課題1 交流の少なさ」解決✓
- 新たな視点・アイデア
- 大学の魅力をより伝えられる
「課題2 学生目線で伝えられてない」解決✓

➢ 石川県にある他大学と一緒に、大学の魅力を伝える動画作成やその合同鑑賞イベントを開催する

ご協力いただいた皆様

- 金沢大学臨海実験施設及び能登海洋水産センター教職員各位
- 金沢大学講義担当教員各位

○スタッフ（所属・役職等は、実施当時のものです。）

【総責任者・主宰】

和田 隆志 学長

【総括】

滝波 泰 理事（総務・財務・施設担当）・副学長・事務局長
佐藤 智哉 国際日本研究センター 准教授
川端 則康 学務部学生支援課 課長（調整補助）
小幡 陽子 学務部学生支援課 副課長（調整補助）

【能登担当】

松原 創 理工研究域生命理工学系 教授（能登海洋水産センター長）
永見 新 能登海洋水産センター 技術職員
上畠 茂利 能登海洋水産センター 技術補佐員
梅澤 正美 能登海洋水産センター 技術補佐員
脊戸 美知代 能登海洋水産センター 事務補佐員
衣谷 昭二 学務部 基幹教育支援課長
羽村 典子 人間社会系事務部 学生課長
長谷川 貴也 病院部 総務課 労務係 主任
横井 明子 総務部 人事労務課 労務・福利係 主任
下山 高嶺 総務部 人事労務課 人事総務係 一般職員
山崎 陽介 融合系事務部 総務課 企画総務係 一般職員
村野 有海 財務部 財務管理課 出納係 一般職員
林 貴広 施設部 宝町施設支援室 設備係 技術職員
廣瀬 達也 医薬保健系事務部 学生課 医薬科学学務係 一般職員
平田 晶也 社会共創推進部 産学連携支援課 一般職員
北川 輝 医薬保健系事務部 総務課 経理係 一般職員
井家 僚太 理工系事務部 総務課 研究協力係 一般職員
松田 啓太 学務部 学生支援課 学生相談係 一般職員
赤城 暁子 国際部 国際企画課 一般職員

【自動車運転】

渡邊 直規 総務部総務課 自動車運転士



【問合せ先】金沢大学学務部学生支援課

〒920-1192 石川県金沢市角間町

h_resilience@adm.kanazawa-u.ac.jp

令和7（2025）年6月 発行：金沢大学 編集：金沢大学学務部

無断転載・複製を禁じます。